

## テレビに映った人間像に対する乳幼児の反応の特徴

—— 視聴距離と虚構認識を中心に ——

筑波大学大学院(博)心理学研究科 村野井 均

筑波大学心理学系 杉 原 一 昭

Children's responses to human figures as they appear on the TV screen

Hitoshi Muranoi and Kazuaki Sugihara (*Institute of Psychology, University of Tsukuba, Ibaraki 305*)

In order to investigate unique characteristics of children's TV watching, parents of 1541 children (0-6 yrs. old) were given a questionnaire which asked how their child watched TV, how much distant the child kept from TV set when watching it, and whether the child noticed uncommunicability with TV figures. The main results were as follows: 20 % of 1 year old children watched TV within a 30 cm distance, and 10 % of them watched it in face-to-face. Even 3 years old children thought that they could speak to a man in TV and that a man in TV could see them through the TV set.

Key words : TV watching, Children's TV watching, distance, awareness of fiction, communicability with TV figures, respondent circumstance.

小学生のテレビ視聴時間は、年間授業時間を越え、幼児、特に3歳児は小学生よりも多くの時間をテレビ視聴に費やしていることが明らかになっている(NHK放送世論調査所, 1979)。Table 1より、3歳児の年間総視聴時間である1,095時間とは約46日にあたっていることがわかる。つまり、1年間のうち約1ヶ月半もテレビを見続けている計算になるのである。

Table 1 小学生及び3歳児のテレビ視聴時間

分類 年齢	一日平均 視聴時間	年間 総視聴時間	年間 総授業時間*
小学1年生	2時間30分	850時間	612時間
小学6年生	2時間30分	850時間	815時間
3歳児	3時間13分	1,095時間	

\* 授業時間は、1授業時間を45分として算出している。

家庭の育児環境が貧しく、特に人的環境の貧しさが指摘されている今日、テレビだけではどの家庭にも入り込み、人的働きかけの不足を補っているかのような観がある(初塚, 1982; 松倉ら, 1982; 佐藤, 1981)。NHK放送世論調査所(1980)の調査では、初めて乳幼児も調査対象とし、4~7ヶ月児はすでに

音だけでなく画面へも関心を示すことや、0歳後半で拍手のまねが始まることを明らかにしている。テレビには人間が登場し、視聴者に働きかけるわけであるから、乳児が反応するのもあたりまえと言えるかもしれない。しかし、テレビに映る人間は、本来、視聴者にかかわりのない人間なのであり、相互交渉を行うことも出来ず、画面の中にしか存在しない、いわば疑似人間なのである。微笑みかけ、話しかけ、楽しそうに動き、おいしそうに食べる等の行動は演技であり、テレビを見ている子どもの欲求とかならずしも一致しているわけではないのである。それにもかかわらず、乳幼児はテレビを見、テレビに反応する。そして大人は乳幼児が様々な反応を行う点を見て「子どももテレビを見ている」と考えている。

しかし、乳幼児は本当に大人と同じようにテレビを見ているのだろうか。そして大人と同じような影響を受けているのだろうか。

### テレビ視聴研究の現状

テレビ視聴の研究は様々な分野で行われているが、子どもに関係した分野にはおよそ3つの流れがあると考えられる。

第1の流れは、番組やコマーシャルの内容分析である(子どものテレビの会, 1981, 1982; 無藤, 1980; 鈴木, 1981). 暴力が番組に占める割合やステレオタイプな性役割に基づく表現を指摘し、子どもの認識に与える影響の実証を試みている(Davidson, 1979). この流れの研究は、テレビの放送内容が理解できることが前提となっているため、小学生以上を対象とすることが多い。

第2の流れは、視聴時間調査である。生活時間の中でテレビが占める割合やテレビの見方、見る理由等をたずねるものである(練馬区教育委員会, 1982; 村野井, 1983). 生活リズムへの影響や子どもの性格・健康との関連を見ようとしている。しかし、この流れの研究は、テレビ視聴の量的把握にとどまっており、乳幼児に及ぼす影響の特徴を表わす指標を持っていなかった。したがって、テレビ視聴が大人と子どもに与える影響の差を示せないという欠点があったのである。

第3の流れは、2~3歳児のテレビ理解を調べるものである(秋山, 1981, 1982). 主に画面への注視やストーリーの理解を指標に、登場人物の動き、セリフ、背景の複雑さが幼児のテレビ理解にどのような効果をもたらすか研究し、具体的には幼児番組の作成に役立てようとしている。この流れの研究は、幼児がテレビの内容をどのように理解しているか、認識の面に立ち入っており、幼児のテレビ理解の特徴を明らかにしつつある。しかし、画面への注視がすなわち視聴の基盤であるという考えが前提にあり、テレビ番組を見せる側の発想によって研究が進められていると言えよう。

以上のように、現在のテレビ研究は、幼児の理解力という面に立ち入って来ているが、多くは内容理解ができた後の子どもに焦点をあてている。内容理解以前の乳幼児への影響や「人間」が映るという特殊性を持つ媒体として、テレビが乳幼児にどのような影響を及ぼしているのか明らかにしようとする研究は、ほとんど行われていないと言ってよいであろう。

#### 乳幼児のテレビ視聴の特徴と指標

乳幼児のテレビの見方が、大人と異なるのではないかという見解は何人かの研究者からなされている。小木(1979)は「はいはいができ、歩行ができるようになりますと、さかんにテレビのそばに行つて、ジッと見つめたり、画面をコツコツと叩いたり、リズムに合わせて身体を動かさせたりするようになります。」と述べている。岩佐(1978)も1歳半児がテレビに近づいて見ることを報告している。

これらの見解は、乳幼児のテレビ視聴行動の特徴を指摘しているだけでなく、内容理解を伴わず、単に画面を見ている可能性も示唆していると思われる。つまり、テレビを見る距離を内容理解の指標としうる可能性を示していると言えよう。しかし、距離に着目した報告は現在のところ個別の事例しか集められておらず、組織的調査による実態把握と年齢の特殊性を明らかにする必要があると言えよう。

それでは、具体的にどれ程の距離ならば内容を理解せずにテレビを見ていると言えるのであろうか。画面にくつつくようにして見ている場合は、画面に人や動物が映っているとは理解はできないであろう。画面の大きさにもよるが、30 cm 以内で見ている場合も同様のことが言えるのではないだろうか。少なくとも、大人ではこのような見方をする人は存在しないと思われる。したがって、30 cm 以内の距離でテレビを見る乳幼児が存在したならば、それは乳幼児のテレビ視聴の特徴を示していると言えるのではないだろうか。はたして、30 cm 以内でテレビを見たり、くつつくようにしてテレビを見る乳幼児はどれくらい存在しているのであろうか。

そして次に、ある程度画面から離れて見るようになり、画面に人が映ることが理解できた後、乳幼児はテレビに現われる人間と本物の人間をいつ、どのように区別してゆくのであろうか。大人はテレビに映る人間を虚像とみなし、番組によって真実を伝えているか、仮空の物かを判断している。乳幼児も同様の判断をしているのであろうか。それとも区別がつかず、すべて実在する人間とみなしているのであろうか。もし乳幼児がテレビに映っている人間を、実在する存在と考えているとしたならば、どのような指標によってこの事実を示すことができるのであろうか。

Bower (1979) は、乳児に鏡を用いて母親の複数像を見せ、対象の同一性を保持する能力の発達を調べた。彼は生後5ヶ月より前の乳児に母親の複数像(例えば3人の母親)を見せても全然混乱せず、3人の母親に順番に相手になりに行くことを示した。次に、母親と2人の見知らぬ人を見せると乳児はもっぱら母親に働きかけに行ったのである。ここから彼は、5ヶ月以前の乳児は母親を他者から区別できるが、虚像と実像の区別はついていないため、すべての像に働きかけようとするのだと考えたのである。このように Bower は、鏡に写った虚像を実在する存在ととらえるか否かの基準を、子どもが働きかけるかどうかによって判断しているのである。すなわち、乳幼児が交渉可能と見なすかどうかという点が、実在している存在と考えているか否かの指標となる

ことを示したのである。

もっとも、交渉可能性は、その手段によって乳幼児の受ける反応が異なる。したがって交渉可能性の認識は、働きかけの手段と反応によって時期にずれが生じると考えられる。具体的には、乳幼児からテレビへ働きかけた場合、テレビは反応しないわけであるから交渉できないという認識は早く得られるであろう (Fig. 1-a)。しかし、テレビから乳幼児へ働きかける場合、乳幼児だけでなく大人ですら反応する時がある。例えば、電車が突進して来たり、猛獣が飛びかかって来る場面では大人も驚くわけである

(Fig. 1-b)。したがって、テレビからの働きかけに対し、交渉可能でないことに気づくのは遅れると考えられる。さらに、テレビの中の世界の出来事はニュース等を除けばすべて演技なのであり、視聴者とはかかわりのない世界である。登場人物同士の関係も製作者が設定したにすぎず、仮空の結びつきでしかないのである。つまり、テレビの中の人間関係は乳幼児の働きかけで変えることはできず、乳幼児はまさに見ていだけの存在でしかないのである。したがって、乳幼児からは働きかけることができないが、テレビの中の人物同士は交渉可能であるといった場合 (これがテレビ視聴の普通の状態である)、テレビの中の人物同士の交渉は虚構の上に成り立っているという事実気づくのは、もっと遅れると考えられる (Fig. 1-c)。

以上に述べてきたように、乳幼児がテレビを見る距離という問題と、テレビの中の人間と交渉可能であると見なしているかどうかという問題は、乳幼児のテレビ視聴の特徴をきわだたせる視点なのではないだろうか。

## 目 的

テレビというメディアは、人間ではあるが交渉することのできない、いわば「疑似人間」を映し出すという特徴を持っている。大人はテレビの中の人間と交渉できるなどとは考えないが、乳幼児ではどうなのであろうか。交渉可能性の認識を乳幼児からテレビへの働きかけ、テレビから乳幼児への働きかけ、テレビの中の人間同士の働きかけの理解という3点から検討する。

また、乳幼児のテレビ内容の理解の指標として、テレビを見る距離をとりあげ、30 cm 以内、あるいは画面にくっつくようにして見る子どもの存在と年齢的变化を探究する。

以上、2つの指標により乳幼児のテレビ視聴の特徴を明らかにしてゆく。

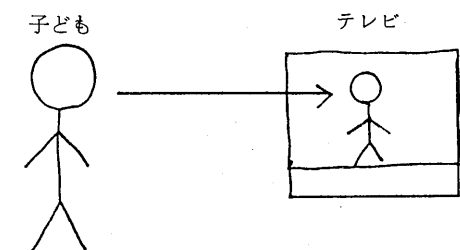
## 方 法

### 対 象

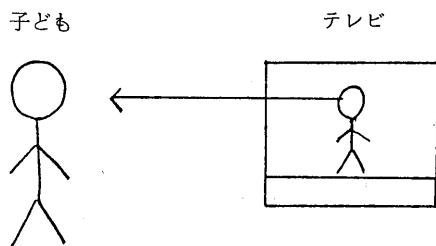
東京都文京区内の公立保育園 17 園、無認可保育園 5 園、および私立保育園 1 園、合計 23 園に通園する 0~6 歳の園児 1,845 名である (Table.2 参照)。アンケート用紙は各保育園を通して配布し、保護者に記入を求めた。回収したアンケート用紙は 1,541 名分であり、回収率は 83.5% である。

### 日 時

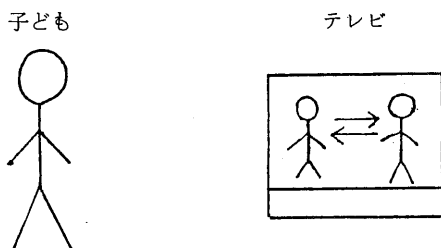
配布および回収は 1983 年 1 月 20 日より 2 月 3 日の間であった。



a. テレビの中の人物は自分 (子ども) の声を聞きとれる



b. テレビの中の人物は自分 (子ども) を見ている



c. テレビの中の人物はたたかれて痛い

Fig. 1 テレビ画面の人物に対する子どもの反応

## アンケートの作成

アンケート用紙は、子どものテレビ視聴の実態と帰宅後の子どもの過ごし方を把握することを目的に作成された(村野井, 1983)。本論文は、大人と乳幼児のテレビ視聴の差を明らかにした部分を報告する。質問内容は Table 3 に示した通りである。

Q2~Q4のテレビの中の人間と交渉できるかどうかを尋ねる項目は、保護者から子どもに質問してもらい、子どもの回答に合うものを選択肢から選んでもらっている。したがって、この部分は間接調査であることをあらかじめことわっておく。

Table 2 被調査者の年齢別人数

年 齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	6 歳児	計
人 数	28	152	230	280	301	311	228	1,530

年齢不明11名

Table 3 質問の内容

Q1 現在、お子さんは注意をしないとどれくらいの距離で、テレビを見ていますか。

1. 画面にくっつくようにして見ている
2. 30 cm以内で見ている
3. 60 cm以内で見ている
4. 1m以内で見ている
5. 2m以内で見ている
6. 2m以上離れて見ている

テレビと現実の区別について

(お子さんに次のことをたずねてください)

Q2 テレビに映っている人にお子さんの言葉が聞こえているかどうか、おたずねください。

たとえば、「ドラエもんは〇〇ちゃんの言うこと聞こえているかな？」

1. 聞こえている
2. 聞こえていない
3. その他 ( )

Q3 テレビに映っている人は、お子さんが見えるかどうかおたずねください。たとえば、「ゴーストファイトは〇〇ちゃんを見ているかな？」

1. 見える
2. 見えない
3. その他 ( )

Q4 テレビの中でたたかれている人は、たたかれて痛いのかどうかおたずねください。

たとえば、「刑事ギャバンは悪者にたたかれるといたいのか？」

1. 痛い
2. 痛くない
3. その他 ( )

## 結 果

## I. テレビを見る距離について

30 cm 以内でテレビを見る乳幼児と割合と、画面にくっつくようにして見る乳幼児の割合を年齢別に示したものが Fig.2 である。1 歳児では約 20%が 30

cm 以内で見えており、10%がくっつくように見えていることがわかる。30 cm 以内でテレビを見ることが内容理解を伴わない視聴とするならば、1 歳児の 5 人に 1 人は画面に何が映っているかわからずにテレビを見ていることになる。この数値は、乳幼児が常

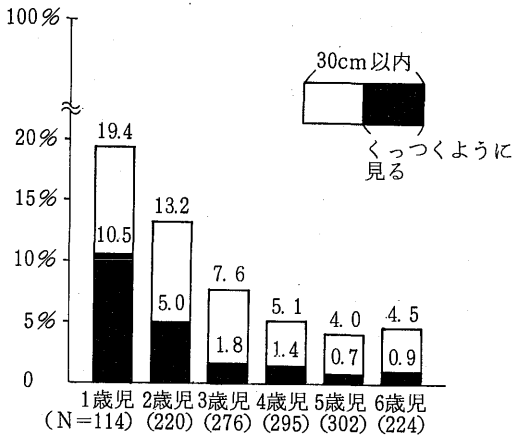


Fig. 2 乳幼児がテレビを見る距離

に 30 cm 以内でテレビを見ていることを示しているとは限らず、単に保護者の目につきやすい特徴であったと考えることもできる。それにしても、この値はかなり高いと言える。なお、0 歳児には、30 cm 以内で見るといふ子どもがいなかったため、図からは省いてある。

## II. テレビ中の人間との交渉可能性の認識について

交渉可能性の認識について、結果を Fig.3~5 に示す。回答のうち、「その他」を選択した例は除いてある。つまり、質問が理解でき、判断を下せた乳幼児を母数としている。0 歳児はすべて「その他」を選択

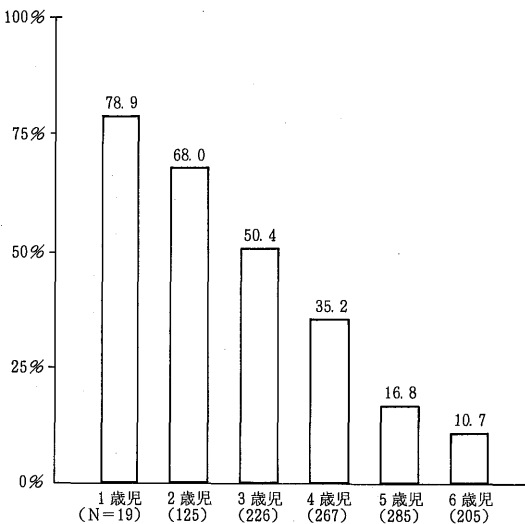


Fig. 3 テレビ中の人物は自分（子ども）の声をききとれると思う乳幼児の割合

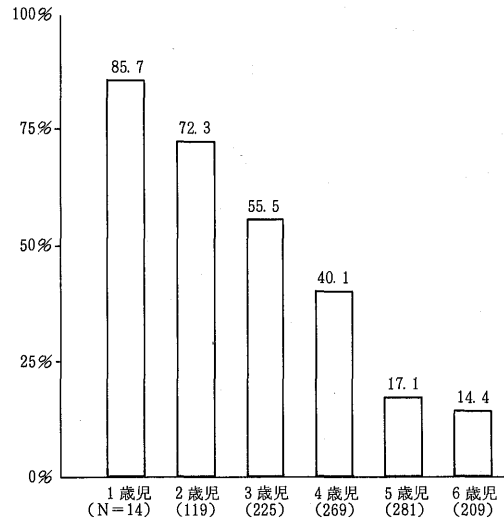


Fig. 4 テレビ中の人物は自分（子ども）を見ていると思う乳幼児の割合

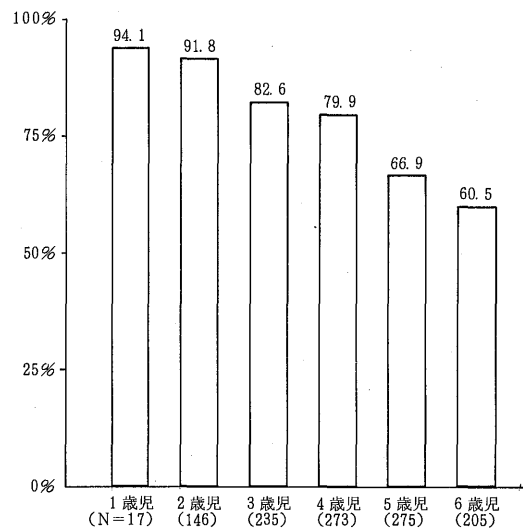


Fig. 5 テレビ中の人物はたたかれて痛いと思う乳幼児の割合

していたため集計には含めていない。1 歳児も同様の理由により、約 1 割しか対象にできなかった。

Fig.3 からわかるように、1 歳児は 78.9% の子どもがテレビ中の人間に働きかけることができることみなしている。そして、3 歳児でも半数が同様に考えていることがわかる。つまり彼らにとってはテレビ受像機の中に人間がいるのである。

テレビ中の人が、テレビの外にいる自分を見る

ことができると考えている乳幼児の割合は、Fig.4より1歳児で85.7%，3歳児でも55.5%となっている。Fig.3に比べ、どの年齢でも交渉可能な存在と見なしている子どもが3～6%増えていることがわかる。

次に、テレビの中の人間同士の交渉が虚構の関係である点に気づいてゆく過程について示したものがFig.5である。テレビの中の俳優は演技をしているのであって、現実には殴ったり、殺したりしてはいない。したがって、テレビの中でたたかれる人は、実際は痛くないのである。しかし、1歳児、3歳児ともほとんどが、6歳児でも6割以上が、「痛い」と考えている。Fig.4に比べ、どの年齢においても10%から45%，数値が増えていることがわかる。

Fig.3～5より、乳幼児が働きかけられない条件になればなるほど、交渉可能と見なす割合が増すことがわかる。

さらに、Q4の回答のうちで「その他」の欄に理由が記入してあるものを分析した結果がTable 4である。全員に理由を書くように求めたわけではないため、Table 4はあくまで記入例をまとめたものに過ぎない。「痛くない」と答えた理由の中に、「金属だ

から」という理由や「正義の味方だから」といったものが見られる。これらの理由は、実際はたたかれているのだが、キャラクターの性能や立場上、「痛くない」と考えていることを示しているのではないだろうか。すなわち、これらの理由は「たたかれて痛い」という回答と同じ理解であると解釈できよう。

「ウソッコだから痛くない」といった、虚構を意識化した回答は3歳児で初めて現われ、以後増えてゆく。「ウソッコだから」という理由が、全理由に占める割合を年齢別に見てゆくと、3歳児12.5%，4歳児41.7%，5歳児で38.5%，そして6歳児で61.5%と半数を越えるのは6歳児になってからである。

Fig.5は、テレビの中の人間同士はかかわれるが、乳幼児は見ているだけという、普通の視聴状態であるといえる。つまり、日常のテレビ視聴において、6歳児でさえテレビの中の人間関係の虚構性に気づかずに見ている可能性を示しているのである。

以上見てきたように、乳幼児はテレビの中の人間を自分と同一空間で実在していると思なしている割合が多く、それも、子どもからの働きかけができなくなればなるほど、実在すると見なす割合が増すことが示された。

Table 4 「痛くない」と答えた理由の分析

虚実の区別 理由		年 齢						計
		1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	
本当はたたかれて痛い	正義の味方だから	0	1	5	4	2	0	12
	金属だから	0	0	1	1	3	3	8
	変身しているから	0	0	1	1	0	2	4
	悪者は痛くない	0	0	0	1	1	0	2
	我慢しているから	0	0	0	0	2	0	2
痛くない	ウソッコだから痛くない	0	0	1	5	5	8	19
計		0	1	8	12	13	13	47

数値は人数

### 考 察

乳幼児のテレビ視聴は、テレビを見る距離と、テレビに映る人間との交渉可能性の認識という2点で大人とは大きく異なっていた。

テレビを見る距離に関して述べると、乳幼児には映像あるいは内容の理解が困難と思われるほど近距離からテレビを見る例が多くあった。なぜ30 cm以内という近距離からテレビを見るのであろうか。

1つの仮説は、乳幼児にテレビに定位反射しているにすぎないという考え方である(岩佐, 1978)。た

しかにテレビは、光、音、色彩、動き等の刺激を出し続けており、家庭の中で最も刺激の強いものである。しかし、Bower (1979)の実験でも明らかなように、乳児はテレビに近づけるようになる頃にはすでに人間を像として知覚する能力を持っている。また、乳幼児には、すべての番組を近距離から見るのではなく、特定のコマーシャルだけを見る例も多い。したがって定位反射が何に対してもどのような単位で生じているのか、定義してゆく必要があると思われる。

乳幼児は人間に対して、頻繁に現われる人間に対

しては特に、近づき、手で触れ、顔をつけ、なめる。これらの行動は乳幼児の外界認知の基本方略である。乳幼児はこの基本方略をテレビにも適用しているのではないだろうか。つまり、テレビに人間が映るという特徴が、乳幼児の近距離視聴を引き起こすと考えられないであろうか。

もっとも、どちらの考え方に立とうとも、光のチラチラする画面だけを見ている乳幼児がかなりいるという事実にかわりはない。今回はアンケートに基づいた結果であるため、乳幼児の近距離視聴が日常的行動なのか、それとも単に親の目につきやすい行動であったのか断定することはできない。したがって、日常場面において乳幼児のテレビ視聴を観察する必要がある。

次に、交渉可能性の認識について述べよう。ここでも、乳幼児は大人と異なり、テレビの中の人物と交渉することができると見なしていることがわかった。そして、交渉可能性はその手段によって認識が遅れることが確認された。すなわち、子どもが操作できない条件になればなるほど、テレビの中の人間と交渉することができると思う割合が増えてゆくのである。特に、テレビの中の人間関係の虚構性の認識は、普段のテレビ視聴場面において求められる能力である。年長児でさえ、テレビが見せるテレビの現実と実世界に存在する現実の区別がついていない可能性がある。

ただし今回は「たたかれて痛い」という質問に対して、「痛くない」と答えた者をテレビの虚構性を理解しているとした。これは、テレビとの交渉可能性はあり得ないという観点から分析を行ったためである。教育的観点からすれば「テレビの中の人間は、たたかれて痛い」という回答を正解とすることも考えられよう。また、テレビにおける虚構と現実の分化は、大人にとっても難しい問題であり、質問されても初めは考え込んでしまう場合がある。保護者が理解できない可能性にそなえ、Table 3 に示したような例文を付けた。しかし、すべての保護者が同じ尋ね方をしたかどうかは不明である。さらに、保護者自身も理解したうえで質問したとは限らない。したがって、今後は直接インタビューを行って今回の結果を再確認する必要がある。

今回の結果は、乳幼児のテレビの見方が大人とはだいぶ違っている可能性を示したと言える。振り返って大人は番組に応じて虚実をすばやく判断し、まったく異なる行動をとる。コマーシャルの意図も理解しつつ見ているといえよう。したがって、テレビを見るという行動は、なにげなく見ていたり、あるいは単にテレビの方へ顔を向けているといった状

態ではなく、思ったより高い能力を必要としているのかもしれない。

また、テレビの害として、子どもが自発的行動を行う際にテレビは「応答的環境」とならない点が良いと言われている。しかし実際は、子どもがどのような状態にあろうとも、テレビは光と音を出し続けて子どもの注意を引きつけ、行動を誘発する側面がある。今後、乳幼児の行動を誘発する行動レパートリーを収録した VTR を用いて、行動誘発の可能性や強度を調べてゆく必要がある。

#### 註 1

この論文は、文京区における子どもの生活とテレビ視聴の実態を把握するために行った調査の一部である。調査に御協力いただいた文京保育連絡会のみなさんと、アンケートに御協力いただいた父兄の方々に感謝します。

#### 註 2

ここで、テレビの中に人間が実在するという意味は、テレビ受像機の中にガラスで仕切られているにもかかわらず、登場人物が存在していると乳幼児がみなすことをいう。現実には、テレビ受像機の中に人間が存在できる余地は無いわけである。

### 要 約

この調査は、乳幼児のテレビ視聴の特徴を示すことを目的に行われた。指標にはテレビを見る距離、およびテレビの中の人物との交渉可能性の認識の2点を用いた。文京区内 23ヶ所の保育園・幼稚園児の保護者に調査用紙を配布し、0～6歳児合計 1,541 名分を回収した。回収率は 83.5%であった。その結果、1歳児の 20%は 30 cm 以内の距離でテレビを見ており、10%は画面にくつつくようにして見ている事実が明らかになった。また、テレビの中の人物との交渉可能性については、3歳児ですら、半数以上がテレビの中の人物に話しかけることができると考えており、テレビの中の人物がテレビの外にいる子どもを見ることができると考えている子どもと同じ割合でいた。したがって、乳幼児のテレビ視聴は大人とは異なっており、同一の基準で論議することはできない可能性が示唆された。

### 参 考 文 献

- 秋山隆志郎・大沢啓子 1981 2歳児におけるテレビへの注視行動 日本教育心理学会第23回総会発表論文集 272.
- 秋山隆志郎・大沢啓子 1982 幼児におけるテレビへの注視行動と内容理解 日本教育心理学会第24回総会発表論文集 256-259.
- バウワー, T. G. R. 1979 岡木夏木・野村庄吾・岩田統一・伊藤典子訳 乳児の世界 ミネルヴァ書房 216-220 (T. G. R. Bower 1974 Develop-

- ment In Infeadman and Company).
- Davidson, E. S., Yasuda, A. & Tower, A. 1979. The effect of television cartoons on sex-role stereotyping in young girls. *Child Development*, 50 597-600.
- 初塚真喜子 1982 発達遅滞児の生活環境について 第46回日本心理学会発表論文集, 231.
- 岩佐京子 1978 新版テレビに子守りをさせないで 水曜社
- 加用文男 1983 河崎道夫編著 子どもの遊びと発達 第II部二章 ごっこ遊び ひとなる書房 164-168.
- 子どものテレビの会編 1981 テレビと子ども—どう見ているか, どう見せるか 学陽書房
- 子どものテレビの会編 1982 テレビと子どもの健康 FCT 第二回テレビ診断分析調査報告 56-66.
- 松倉信濃・村野井均 1982 1歳半児の生活実態調査 日本教育心理学会第24回総会発表論文集, 362-365.
- 村野井均 1983 文京区における乳幼児の生活とテレビ視聴の実態 文京保育連絡会編 文京区乳幼児生活実態調査報告書 第3章 帰宅後のテレビ視聴の実態
- 無藤 隆 1980 講座テレビと子ども(一) 児童心理 34巻12号 金子書房
- 練馬区教育委員会 1982 練馬区児童・生徒のからだと生活 64-66
- NHK放送世論調査所編 1979 日本の子どもたち—生活と意識— 日本放送出版協会
- NHK放送世論調査所編 1980 幼児の生活とテレビ—0歳から6歳まで— 日本放送出版協会
- 小木美代子 1979 子どものテレビ視聴の問題性を 衡く 子どもの文化双書 子どもの発達とテレビ 童心社 214.
- 佐藤益子 1981 1歳6ヶ月健診に見られる発達と環境因子の分析 京都女子短大児童学研究, 12, 1-10.
- 鈴木みどり 1981 現代の子どもにとってテレビはどうあるべきか 稲村 博・小川捷之編 シリーズ現代の子どもを考える Vol. 2 テレビ 共立出版社 89-114.

— 1983.9.30 受稿 —